

H23.11.26

学校跡地で地域活性化のバイオマスモデル

トーセンが栃木に新工場



学校跡地に建設中の新工場
(右は東泉社長)

トーセン(栃木県矢板市、東泉青寿社長)は、廃校になった栃木県内の中学校跡地に、年間4万立方メートルの丸太を消費する国産材製材の新工場を建設する。林業振興を地域の活性化につなげたい地元の自治体の要望を受けて進出するもの。雇用の創出はもとより、素材生産の促進やバイオマスエネルギーを使った新産業の創出も見据えている。過疎化の象徴である廃校を舞台に、新しいビジネスモデルを目指す。

新工場の那珂川町立馬頭東中学校跡地は、少校跡地で、敷地面積は約7500坪。校舎や体育館などの学校施設はそのままに、空いた校舎に、新しいビジネスモデルを目指す。

(柱ライン、中目材ライン)、チップバー、段積み機などで、総工費は4億円(土地は賃借)。来年度以降、第2期工事として乾燥施設や仕上げ加工機などの2次加工施設を整備する。

同社はグループ22工場、年間28万立方メートルの丸太を消費する国産材製材の大手。各工場では生産した製材を5つの拠点工場に集め、乾燥、仕上げ加工をして供給している。新潟と栃木の2カ所に集成材工場を持ち、製材端材やハネ材の有効活用にも取り組んでいる。新工場では3、4層の柱取り、中目材を投入し、柱、間柱のほかに、各種羽柄材を生産する。従来は製材する丸太のほとんどを共販所や市場から調達していたものの、新工場では地元森林組合や素材だけで採算を合わせようとしてきたが、円高下で外材と肩を並べるとの林地残材を含む残る50%の価値を上げ、すべての資源を使い切る仕組みを作る必要がある。このためにはバイオマス発電を促進し、チップ用材の価値を底上げすることが不可欠。将来的にはバイオマス発電を利用した温室ハウスやウナギの養殖などの産業を興し、地域の活性化にもつなげたい。

集成材・松・唐松

各県産材ご用命下さい

TSC株式会社 ティ・エス・シー
〒292-0838 千葉県本郷市潮浜2-1-53
TEL/0438-37-0206 FAX/0438-37-2349
ホームページ http://www.syusel-tsc.com

木材加工販売 矢板のトーセン

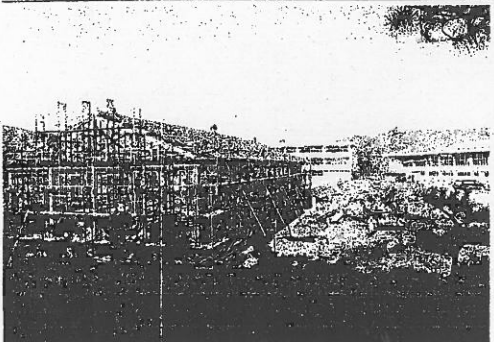
バイオマス発電所建設

那珂川町の 新産業創出に活用

木材加工販売のトーセン(矢板市山田、東泉青寿社長)が、那珂川町大山田下郷の馬頭東中学校跡地にバイオマス発電の建設を計画していることが16日分かった。地元の原木を製材する新工場を設置するとともに、製材時の端材や地元の林地残材を発電燃料に有効利用する。発電に伴う熱源は温室ハウスやウナギ養殖など地元での新産業創出への活用を検討しており、廃校を余儀なくされた過疎地の活性化も図る考えだ。(小林治郎)

温室ハウスや ウナギ養殖検討

同社はグループ23工場、28万立方メートルを超える国産材で年間原木消費量が1材製材業界の大手。す



新製材工場の建設が進む馬頭東中学校の跡地。2期計画ではバイオマス発電の建設が予定されている

で、第1期計画として、2008年に廃校跡地となった同校跡地の校舎に、年間4万立方メートルの丸太を消費する製材工場を建設する。来年度以降、第2期工事として乾燥施設や仕上げ加工機などの2次加工施設を整備する。

の原木を処理する製材工場を建設中。来年度以降、第2期工事として乾燥施設や仕上げ加工機などの2次加工施設を整備する。

バイオマス発電は第2期計画。発電で生じる熱を利用した木材乾燥施設と、体育館内に加工施設を整備する。発電プラントは出力2千キロワットを念頭に機種選定を進めており、早ければ来年度末に完成させたい考え。ただ発電時に生じた熱源の利用は自社や地元で創出された新産業への活用だけでなく、採算が取れるような供給先が必要で、建設実現の鍵の一つとなっている。

新製材工場では、従来は市場や共販所から調達していた原木の半